

哀悼

アヨーダイ・オチル Аюудай ОЧИР (1948-2024)

モンゴル国の科学功労者、歴史学博士(Sc.D)・教授のタイヂウド姓アヨーダイ・オチル氏が2024年6月18日に病のため亡くなり、モンゴルの科学分野に補いきれない損失となった。

A. オチル教授は有名な学者であり、教育、科学、文化の分野の才能ある組織者であった。彼は1948年にオブス県ズーンゴビ郡で生まれ、1958年から1968年にかけてバローン・トゥルーン十年制学校で学び、1968年から1970年にはモンゴル革命青年同盟の代表としてセレンゲ県で働いた。

1970年から1975年にかけて、彼はモンゴル国立大学で学び卒業し、1975年に科学アカデミー歴史研究所に学術助手として入所して以来、1990年まで学術指導員、副・上級職員、部門長、学術秘書として勤務し、1991年から2001年には当研究所長、2001年から2003年には部門長、2003年から2008年にはモンゴル国立博物館館長、2008年から2021年には国際遊牧文明研究所の国際プロジェクト・マネージャー、学術筆頭研究員、所長代行を務め、2021年からは科学アカデミー歴史民族学研究所の顧問を務めていた。

A. オチル教授は1991年以来、この国の歴史研究が市場経済関係へ移行し、外交関係が発展し、国際研究プロジェクトを実施する際に、専門の歴史学者の育成のために尽力してきたのであった。彼の発案・指導によって韓国・日本・中国・アメリカ・ロシア・トルコ・ドイツなどの国際的学術プロジェクトがモンゴルで成功裡に行われ、その成果はモスクワ、北京、ベルリン、ソウル、イスタンブール、東京、大阪、ウランウデなどで出版され、歴史・文化研究の新たな情報源として蓄積されたのである。

例えば、A. オチルは代表となって、韓国と共同した「東モンゴル」プロジェクト、日本と共同した「ビチェース」プロジェクト、ドイツと共同した「カラコルムの考古学的研究」、トルコと共同した「キョル・テギン、ビルゲ・カーンの祭祀遺跡の研究」をはじめとする巨大プロジェクトが執行され、モンゴルの歴史と考古学研究を世界的水準に上げる際に重要な推進力を示したのであった。

A. オチル教授はモンゴルの古代・中世史、文化、民族学、考古学研究を行う、国際的な水準の高名な学者の一人であった。彼は1991年に「北モンゴルにおける中国貿易(19世紀から20世紀初頭)」をテーマに歴史学准博士号(Ph.D)を、また2004年に「ハルハ族の民族構成と出自」をテーマに科学博士号(Sc.D)を取得し、1996年から准教授、1998年に教授に昇進した。

同様に2001年にはベルギーのリチャード・ルイ研究所から考古学博士(Ph.D)を取得した。

A. オチルは20冊の単著書と共著書、学術論文約150件を公刊した。その中で、日本で一冊、中国で二冊、ロシアで二冊の書籍がそれぞれ翻訳出版された。

彼の学術論文約30件は日本語、韓国語、英語、ロシア語、中国語、トルコ語などに翻訳され、専門誌やシリーズで出版された。

学者A. オチルは、モンゴル国大統領令により全5巻の『モンゴル国史』の編纂を担当し、総編

者・主著者として関わり、2003年に出版された。これはモンゴル史研究刷新の基盤となったと評価され、現在、全ての学校教育の歴史授業のカリキュラムや教科書を開発するための主要なツールになった。

同様に A. オチル教授がモンゴル人の起源と部族構造を特に研究し、1990年代に起こったモンゴル人の部族名復興活動に学術的根拠と理論的方法を提供することに主導的役割を果たしたことを強調する必要がある。

A. オチルの科学への貢献と功績は政府によって高く評価され、1996年に科学筆頭勤労者、1999年に「北極星勲章」、2010年に科学アカデミー「フビライ・ハーン」金メダル、2016年にモンゴル国科学功労者の称号が授与された。また、A. オチルはモンゴルと日本両国の学術・研究関係への貢献が認められ、2014年に「日本国大使表彰」、2023年に「日本国外務大臣表彰」を受賞した。

A. オチル教授は歴史学者、民族学者、考古学者であり、私たちの尊敬する顧問、敬愛する先生だった。彼は1990年以来、内外の20名以上の博士(Ph.D.)、科学博士(Sc.D.)の研究指導者および学術顧問を務め、そのうち8名が教授、7名が准教授の地位に就いており、学術機関や大学に勤務している。同様に A. オチル教授は1992年から1993年にアメリカのインディアナ大学、1994年から1995年に韓国の檀国大学、1996年から1997年に日本の東北大学、そして2006年から2007年に早稲田大学客員研究員および客員教授として招聘され、モンゴル研究の成果を海外に広め、外国の若手モンゴル研究者の育成に尽力・貢献した。A. オチル教授は1980年代から国際モンゴル学会の理事会(運営委員会)役員を務め、モンゴル研究の大規模な会議を組織し、モンゴル研究の推進に精力的に尽力した。

モンゴル国科学功労者、歴史科学博士(Sc.D.)、教授のタイゼウド・アヨーダイ・オチル教授の謙虚さ、勤勉さ、革新性、博愛精神、寛大さ、誠実さ、そして原則主義の性格は、学者とともに多くの弟子たちに懐かしく記憶されることになるであろう。彼のご家族と親族、友人、同僚、そして弟子たちに心からお悔やみを申し上げる。

モンゴル科学アカデミー
科学アカデミー歴史民族学研究所
科学アカデミー考古学研究所
チンギス・ハーン博物館
モンゴル国立博物館
国際遊牧文明研究所
国際モンゴル学会
モンゴル研究国家委員会